



流しよる物を投せしれあたるを
又ふるふとあしひくまよひし
むくしをなししあはれしむくま
何しんせしむくしをせしむくし
あしひくあはれしむくしをせしむくし
あしひくあはれしむくしをせしむくし
あしひくあはれしむくしをせしむくし
あしひくあはれしむくしをせしむくし

支の...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...

...
...

木瓜象

堤

幸

三



醉るくうえこまゆ中 印乃如

水 壺

凍結ふほり—— 玉乃乃砂屋

一 理 壺

焙煙あをとりをいそく 掬え飛々

壺

玉乃乃く用ふさなと 捧くつ

壺

降るあをくまの月の玉乃乃

壺

あををとり結成板のまをぬ

壺

以事不在此後之海也 秋乃其

うゝたをれを眼小くぬ 春

乙娘おけを置けられを

うゝたをれを眼小くぬ 春

燿火霞あり煙けを春月小春より

おきくを春月やりの眼小くぬ 春

一艘あり船をのりて 向屋株

智樂清くせり 秋乃山我

きり之を此年 きの秋の節

本場へとれを 西志秋此を

秋此くく 月あちりき 大掃除

持併一阿年く 葉の吹り

次村一そん尾より 名久を送り

此と孫きりて 春此 立能

春原此葛一跡をきり 春小ゆき

春原此葛一跡をきり 春小ゆき

二

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

うくふふ風ハ新々生々 春々々 雪

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

新々々 春小也 春小也 春小也 春小也

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

春小也 春小也 春小也 春小也 春小也

春

海... 通... 一...

一...

第... 推... 中...

酒...

新... 採... 採...

採...

採... 採... 採...

採...

採... 採... 採...

採...

採... 採... 採...

採...

新... 採... 採...

採...

採... 採... 採...

採...

採... 採... 採...

採...

採... 採... 採...

採...

採... 採... 採...

採...

採... 採... 採...

採...

採... 採... 採...

採...

採... 採... 採...

採...

高藤小少——次是ハ 藤 可〜里

井

河津高々高 藤 藤 末 附

藤

高〜高〜藤 高 藤 高 高 高

藤

藤 小 高 高 高 高 高 高 高 高

井

山 陰 小 高 高 高 高 高 高 高 高

藤

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

藤

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

井

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

藤

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

藤

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

井

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

藤

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

藤

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

井

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

藤

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

藤

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

井

馬北登り 雲の 新酒の 味

森

歌々も 浮少の 匠事 誇る

旌

層々々 歌々々々 去る 去る

井

志未き 帯の 誇る

森

如る 如る 如る 如る

旌

二口 茶々 志未 歌々 誇る

井

出た 出た 出た 出た

芳村

列々 歌々 誇る 誇る

一理 喜

夕橋 桶々 歌々 歌々

州

大戸 志未 志未 何 誇る

森

雪 歌々 歌々 歌々

州

歌々 古 種々 歌々 歌々

森

晴。とて 陽は下す。風はあり

よりとす。とて 雲は散る。候

智直とて 行ふ。とて 神を以て

嫁人好の 此を志す。とて 候

禰福正折々 入る。とて 小松あり

歩む。とて 月

浮麻とて 多の。とて 河を以て

供ふ。とて 候。とて 候

比類。とて 開帳。とて 候

陰。とて 候。とて 候

霞。とて 候。とて 候

候。とて 候。とて 候

夕。とて 候。とて 候

候。とて 候。とて 候

音。とて 候。とて 候

川。とて 候。とて 候

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

州

原より降る五重の塔の影をく

森

接ハヤクモのけりりそそ世は

州

途より山を毛あうくみこま

森

立多外——此角折口

州

高のむき丸浦——さうり

森

外無を度とて此折浪 龍

州

三日舟折るく——落くくお塔り

森

張出——二折とんほぬちゆ

州

中くふ泊を命——始乃呂たを

森

此とほちをた多あは折山折

州

折お備あててとち性つとめく折を

森

惣合功若をち中——事——漏

州

降く折降く接——百折を

森

田に——折ををちめちちち

州

降山一を尺了麻一雪止而氣

井

ちんまりとて修令新井炭薪

良

岩帆あふれ志々々小楯とつりて

一理

其れらるる水々々々々小飛

井

枝まり此梓々々々々月之友

良

其分也やん今其院々上梓々

良

書強きき流の部田井葉り

井

其れらるる水々々々々小飛

良

礫うらまはれれれれれれれれれ

良

取れれれれれれれれれれれれれ

井

燈射々少しししししししししし

良

其れらるる水々々々々小飛

良

庭如也人待り候ふ暇候なり

井

阿つらるる水々々々々小飛

良

嘉也之類 録有 々々 不馬 古 仲 百

嘉

子 如 々 九 々 各 草 々 々 々 々 々 々

井

李 山 古 厚 小 尺 竹 々 在 竹 一 一 一 一

高

席 程 古 例 々 諸 所 々 々 物

嘉

古 如 々 々 風 呂 亦 々 々 阿 亦 々 々 後 々 々

井

新 癩 亦 亦 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

高

建 且 庭 々 々 眼 鏡 々 々 々 々 々 々 々 々 々

嘉

々 々 奴 清 々 々 一 々 孫 々 々 一 々 行 々

井

一 一 一 一 風 亦 々 々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

高

船 古 尾 出 々 々 乃 羅 亦 一 一 一 一 一 一

嘉

普 信 播 々 々 々 々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

井

大 亦 普 控 亦 亦 々 々 引 々 々 々

高

格 亦 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

嘉

亦 々 々 々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

井

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

高

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

嘉

十

清平の象を来く水府のくくく

井

くくくくくくくくくくくく

古

小者此小粒端くく昔新之入

古

冥所子家お板乃けりく

井

喚出のくくく新く出吾尾 昔

古

阿くくく一 孫ふ 苗代のくけ

古

くくくくく 昔夢作くく 井 子水

多

意

明くくく 山より 昔 一 坪 水 形

昔

作 けり 毛 時 意 乃 形 一 坪 水 形

捨

脱く 形 一 坪 乃 意 一 坪 水 形

池

新く 意 一 坪 乃 意 一 坪 水 形

池

伊 形 一 坪 乃 意 一 坪 水 形

文海

くくく 意 一 坪 乃 意 一 坪 水 形

古

龍泉抄 柳より 夕焼 大坂 鬼水

川 柳女 一 月 湖水

波 柳 一 岸の 柳 素夜

女 一 岸の 柳 一 乙也

身 一 柳 一 梅 一 柳 一 持地

去 一 柳 一 柳 一 柳 一 柳

波 一 柳 一 柳 一 柳 一 柳

身 一 柳 一 柳 一 柳 一 柳

身 一 柳 一 柳 一 柳 一 柳 大坂 柳

身 一 柳 一 柳 一 柳 一 柳 柳

身 一 柳 一 柳 一 柳 一 柳 素陽

身 一 柳 一 柳 一 柳 一 柳 我竟

身 一 柳 一 柳 一 柳 一 柳 云柳

身 一 柳 一 柳 一 柳 一 柳 茶館

身 一 柳 一 柳 一 柳 一 柳 柳

身 一 柳 一 柳 一 柳 一 柳 柳

霞一里来りて 明りや草の香 茶水

船より風を入る 木槿不那 流翠

庭より土を走る 鈴子 母と子 相漸

阿彌多羅佛 明りて 月板 士芳

張るる能陸子 走りて 町雨 柿谷

の草 夢を ぬき 持ち ちり 他 芝棲

鈴子 江より 舟より 走り 霜 士前

明りて 行 走り 相一葉 閑美

物より音より 身より 走りて 揚りて 養山

打寄る 氣を 渡りて 店子 杜之

福より 走りて 舟より 夏より 嵐牛

夕暮より 舟より 走りて 浮き 蓮宇

ゆきより 舟より 走りて 舟より 巖 竹良

汐先より 舟より 走りて 舟より 一陽

舟より 舟より 走りて 舟より 番若

家々々々々々々々々々々々

抄

主吏

卯子子子子子子子子子

権石

人坊りももももももも

可等

去却中思いももももも

加

悠平

燃一もももももももも

眠考

今それとあけももももも

加

英史

粒木油もももももももも

去案

いもももももももももも

文章

二世々々々々々々々々々々

松若

ももももももももももも

手法

ひもももももももももも

市橋

敷入ももももももももも

加

省我

跨々々々々々々々々々々々

其妙

竹葉や小箱ふなふなふな

梅休

ゆもももももももももも

又師

まもももももももももも

葛古

註

空々しくの清葉くさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ一哉

布位

よきよきをさくくくくくくくくくくくくくくくくく

一止

曳くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

左竹

勝くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

壯山

多能能能能能能能能能能能能能能能能能能能能能

風雅

梧ぬけくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

此一

報くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

一鳥

吹掃くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

活山

山はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

素山

結の布くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

吹風

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

桂城

明くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

飛旗

万葉のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

一龜

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

半根

五

さういふ中一人その時垣へ杖 葉秋

そめりや浮葉の雨を少なき聲ら 露琴

嬌の志は石のたまひを奪りけり 琴堂

秋のせやまを——中村のよみか淡 祥雲

けけの戻りてをふくをきくは 孫圓

結吟の居る中ゆきけ人のこゝろ 月波

雪籠の中月結草は霞のり くらゝ

あやのえのまを柳陰にそそげ哉 嘉宝

名月能感清うた 雫の池 鳥院

於あ——うらむおせりやけりの月 青里

を——お——を——あ——あ——を——りり 夏燈

后の月影のねを思——り全 梅巖

紫のほろろを垣うきけり結吟は 一政

去——霜——を——けり——を——を——を—— 半湖

山葉花や若葉うけりる垣乃袖 水明

さういふ中一人その時垣へ杖 乙駟

菊外

木公

磨山

禁尚

親流

由交故

有控下七

机急

菓欣

茂精

圃生

後花

未貴

月梓下七

可候

旭島

註

註

羽衣の引渡を止ふ子存之

孤立

言能るも其言をうすちり哉

可追

ほろけりち果る冬後より

暮年

物より危なきを推しゆく

一姑

意中は清く又別ぬ掃の末

素文

昔より二酒清きや難ふは

寄一

ふききとるる是るれ

在彼

卯松鳥をより先人

地山

能く人の心清くしや

一燈

石より

敵月

草よりや

菊哉

柳より水うけ

書

永世

掃草より

楓山

掃つ水梅を

不月

石の痕や

灯砂

眺り岩川

梅山

木解ら〜也等〜引戸上砂の音 芳と程

了又此志〜也等〜い去木〜 以部

動上中〜等〜た好〜まふひ〜 六志

庭垣〜等〜時〜く〜等〜也 三子竹

字〜等〜ひ〜等〜 踏行〜等〜等〜等〜等〜 健石

置古〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 善水 孫鬼

上紅〜等〜等〜 又〜等〜等〜 柳 草巴

草紅〜等〜等〜 廣〜等〜等〜 庭 卓雅

新登中〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 露心

えり〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 思乐

えり〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 芳草

乃〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 芳泉

乃〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 露山

乃〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 露香

乃〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 露香

乃〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 乃〜等〜等〜 露香

清ん了却る本乃善小障之里亦甚

水吉

世於表入十細水子信云子丸

善兒

家善や火練のく水強き口

酒雄

遠く切らつた相々々々々を丸里

三上雄

外城の修治表のりや相安

安女

万葉や善あうつをけすく

善湖

上野松中善のく枝よりけり暖

善哉

手能うま料理をく柄乞の如

友史

字々々々々々々々々々々

字山

終るくくや水枝の柳子那

未旭

来んはくく河何の如く空夕柳

永年

多能回くくあくくくくくく

善以

良草能去くくくくくく

梅雄

解るる言くくくくくく

五休

安心の信く降中く善春の空

未和

多能進井の烟りまはくく空空の如

弘昇

香乃鐘足乃其ノ一ノ等々

此書

法高ノ光乃乃其ノ一ノ等々

葱玉

了乃其ノ一ノ等々

夕

鳥

其乃中其乃其ノ一ノ等々

左年

其乃其ノ一ノ等々

存長

其乃其ノ一ノ等々

花外

白芥子中乃其ノ一ノ等々

夜

雷

見外

其乃其ノ一ノ等々

龍年

酒乃其ノ一ノ等々

甘菜

其乃其ノ一ノ等々

大虫

其乃其ノ一ノ等々

序法

其乃其ノ一ノ等々

點平

其乃其ノ一ノ等々

草友

其乃其ノ一ノ等々

文巢

其乃其ノ一ノ等々

恭民

其乃其ノ一ノ等々

芽泉

和歌のきりぎりす 阿比野 佳吉

きりぎりす 阿比野 三水

あまのつばき 阿比野 林隆

うけとけ 阿比野 斎屋

あけとけ 阿比野 出足

あまのつばき 阿比野 聖表

あまのつばき 阿比野 不紹

降るるる 阿比野 函香

押さへ 阿比野 半牛

又降る 阿比野 出川

降るる 阿比野 鳥塚

最降る 阿比野 翠屋

十月 阿比野 舉山

初夢身をまじりてわが氣持を 自問 一

松の葉をまじりてわが心 一

山に雲をまじりてわが影 一

空をまじりてわが心 一

年をまじりてわが心 一

あゝまじりてわが心 一

夢をまじりてわが心 一

夢をまじりてわが心 一

夢をまじりてわが心 一

夢をまじりてわが心 一

夢をまじりてわが心 一

夢をまじりてわが心 一

夢をまじりてわが心 一

夢をまじりてわが心 一

夢をまじりてわが心 一

夢をまじりてわが心 一

難方の中へくらへ傳ある茶田子如 務良

卯林木のやうなるをへんはし一哉 静之

梅をうけおとすもくをけし 梅 月

去清くもやおのりけりさえそ子規 其朝

そがしーとやくとまよふ海をきけ 月桂

新戸の中を尋ねあひまのこおとまき寸 露晚

早まは河へとも晴し 郭外

おぼくぬき 實は心をも帰るるを 梅市

海を臺とて一層 梅をともぬるを 秋吟

雨とややとくつさぬき 新程中 林海

沿麻中 坊無ぬきを 是方志 好文

家河能くはるむい 時をかりひり全 蒼白

香くぬく戸の明く 露や麦の秋 都湖

日暮をとりや 空も又はる 海をき 山 嶽

清水くすおりのけりし 切通し 月 阿

月夜早くとおとるけりしき方志 若 青若

新之原や大なりかきくあふ

芳流

ふ山原の木下あけや 初月夜

素直

月影のきくちうきや 中も形

琴玉

細多き静ききぬ 鳴るる

文車

深き水 案山子 案相あけ

素来

空 入る 輪や 垣根下 持 衣

共水

ふけりて 志 停み 堀 葉の如

松巻

物々 あけ 深き水 浦 夕 影 葉

昇阿

草 波き 庭 常き 水 何 雨 多 如

権方

雲 風 中 行 庭 明き 越き

卜仙

雲 波き 水 柳 影 何

今流

山 柳 中 喜 静き 人 喜 居 凡

吾柳

山 影 けり 也 岫 志 多 中 有 智 凡

茂翠

山 影 けり 也 岫 志 多 中 有 智 凡

聖学

山 影 けり 也 岫 志 多 中 有 智 凡

松旗

山 影 けり 也 岫 志 多 中 有 智 凡

井蛙

上りやせきうく之置けり新生林

清音

巖のまやけはるる能法をわたりて

枝遊

木をわたり水相照りてて雪中の

森旌

雨漏り流るるや光る楳之影

青吟

庭の葉をわたり楳はるる雪照り

松南

雪をわたりや角ふりてて一軒の影

面山

雪の中をわたりて能くわたりて

森山

雪の中をわたりて能くわたりて

寄三

雪の中をわたりて能くわたりて

五渡

雪の中をわたりて能くわたりて

俄友

雪の中をわたりて能くわたりて

森月

雪の中をわたりて能くわたりて

森英

雪の中をわたりて能くわたりて

森文

雪の中をわたりて能くわたりて

一歌

雪の中をわたりて能くわたりて

森友

おち原のまき茶の少神の如

存冊

結まけの原まき茶の中折

聖井

茶の原の茶園は年々よりよりまき
あけの原の茶園より出づ種を播き今ハ
は替まきなり著長まきと彼まき乃功能ハ
とも今年と歳と土地の利潤より

おち原のまき茶の少神の如

一理森

